

糖尿病に合併した膵腺扁平上皮癌の1例

なが み はる ひこ¹⁾ さ とう よし とし た ばら ひで き³⁾
 長 見 晴 彦¹⁾ 佐 藤 仁 俊²⁾ 田 原 英 樹³⁾
 た じま よし つぐ⁴⁾ み うら ひろ し⁵⁾
 田 島 義 証⁴⁾ 三 浦 弘 資⁵⁾

キーワード：膵腺扁平上皮癌，SCC

要 旨

膵腺扁平上皮癌 (pancreatic adenosquamous carcinoma: PASC) は膵癌成分と扁平上皮癌成分が混雑し膵管癌の中でも予後不良で稀な疾患である。今回、急性腰痛を主訴に発症した PASC の1例を経験した。症例は54歳，男性で主訴：急性腰背部痛，既往歴：2型糖尿病 (糖尿病歴12年)，高血圧症，高脂血症にて加療中であったが2015年8月13日に急性腰痛のため当院を受診，その後専門病院での上下腹部 CT，PET-CT，審査腹腔鏡検査にて PASC と診断した。腫瘍マーカーは血中 CA19-9，CEA，SCC 値が高値であり病理所見は線維炎症性間質を背景に卵円形核の異型細胞がシート状に配列する moderately～poorly differentiated squamous cell carcinoma であった。治療はジェムザール+アブラギサンによる化学療法行なったが開始後6ヶ月目に死亡した。日常臨床において急性腰痛，頑固な腰痛患者は PTSC も含め悪性疾患による腰痛に注意する必要がある。

はじめに

膵腺扁平上皮癌 (pancreatic adenosquamous carcinoma: PASC) は膵管癌の中でも稀な疾患であり¹⁾，その頻度は膵原発悪性腫瘍の2.1%である。本邦においても症例報告は少なくその診断，予後，臨床学的特徴は不明な点も多い。

PASC は膵癌成分と扁平上皮癌成分が相接，または混雑し扁平上皮癌成分が腫瘍全体の30%以上を占拠する癌腫と定義されるが扁平上皮癌成分のみ認める場合も PASC に含まれる。

今回，我々は急性腰痛を契機に発症した PASC の1例を経験したので文献的考察を加え報告する。

症 例

患者：54歳，男性

主訴：急性腰背部痛

既往歴：高血圧症，2型糖尿病 (糖尿病歴10

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック 2) 松江赤十字病院消化器外科

3) 出雲徳洲会病院外科 4) 島根大学消化器総合外科

5) 松江赤十字病院病理部

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1

長見クリニック